

【関連年表】

一九六四年 誕生

一九八三年

県立南大隅高校から兵庫県宝塚音楽学校に進学。

一九八五年

宝塚音楽学校卒業（宝塚歌劇団に入団）。

一九九九年

花組トップスターに就任。

二〇〇一年

宝塚歌劇団を退団。女優として活動を開始。

二〇〇八年三月

悪性リンパ腫しゅの治療のため休養。

二〇〇八年八月

女優業に復帰。

夢を描け、夢の翼つばさを休めるな

愛華あいかみれ

皆さんは、「宝塚歌劇団」を知っていますか。一九一

四年（大正三年）の初公演以来、今なお絶大な人気を集める、女性だけの歌劇団です。宝塚の劇団員は、舞台衣装を身にまとい、スポットライトを浴びながら役を演じ、歌い、踊り、大勢の観客を魅了みりようします。

その中でも、ひときわ目立ち輝くのが、「トップスター」と呼ばれる劇団員です。宝塚歌劇団の中にある「花組」「月組」「雪組」「星組」「宙組そら」の五つの組に、それぞれ一人ずつが指名され、文字通りステージの主役と、日常の団の活動においても他の組員をまとめあげていく役割とを担っています。

【宝塚歌劇団】

一九一四年（大正三年）創設。兵庫県宝塚市にある、女性歌劇の劇団である。

【宝塚歌劇団の舞台の様子】



(愛華みれさん提供)

【熱演する愛華みれさん】



(愛華みれさん提供)

そんな栄誉^{えいよ}ある歴代のトップスターの一人に、鹿児島出身の女優、愛華みれさんがいます。愛華さんは、一九九九年（平成十一年）から三年間、宝塚歌劇団で花組のトップスターを務めました。

鹿児島に生まれ、鹿児島で育った愛華さんが、どのような決意で遠く離れた宝塚の地へ旅立ち、どのような努力を重ねてトップスターにまで登り詰めたのか、その歩みを皆さんに紹介したいと思います。

愛華さんは、一九六四年（昭和三十九年）、根占町^{ねじめ}（現在の南大隅町^{おおすみ}根占）に生まれました。地元の小・中学校を経て、県立南大隅高校へと進学した愛華さんは、高校二年生の頃から、少しずつ自分の進路についても考えるようになります。と言っても、学校から推薦^{すいせん}をもらえそうだったこともあり、まだこの頃は愛華さん自身も、「大



学や短大に推薦で進学したい。」と考えていました。

ある日、愛華さんは、友達と昼食をとりながら何気なく見ていた受験情報誌の中に、「宝塚音楽学校」という学校の募集要項を見つけます。その時の愛華さんの心の中に、ふと、ある言葉がよみがえりました。

「あなたは、剣道もしていて姿勢もいいし、身長も高いから、宝塚に行って男役とかやれば、ぴったりだね。」

母親が、夕食の支度をしながら何気なく発した一言でした。それまではあまり気にも留めなかったのに、その募集要項を見た日から、母親の言葉や、宝塚音楽学校のことを、何故か愛華さんの心の中に引っかかってしまいます。

そんな中、進路指導の先生との面談の機会があり、愛華さんは思い切って先生に相談しました。

「先生、わたし、宝塚音楽学校を受けたいと思います。」

【宝塚音楽学校】

宝塚歌劇団団員養成校で、予科と本科合わせた二年制。四十人から五十人の定員に対し、毎年、千人近い受験者がいる。

それを聞いた先生は、びっくりして言いました。

「本気なのか。今から間に合うことなのか。バレエを習っているのか。ピアノも弾けるのか。宝塚は、小さい頃からそういうことをしてきた子たちばかりが受験するところだぞ。もう一度よく考えてみなさい。」

もつともな指摘しってきです。それでも、十七歳の愛華さんはこう答えました。

「先生のおっしゃることはよく分かります。でも、私はチャレンジしてみたいんです。最初から『できない。』とあきらめたくありません。」

この時のことを、愛華さんはインタビューで、次のように語っています。

「『自分の責任で決めた。』ということにしないと、将来どこかで挫折させつしそうなくらい苦しいことがあった時に、『お母さんが言ったからよ。』とか、『先生がこうし

【考えてみよう】

愛華さんのように、他人任せではなく、自分のことは自分で責任を持って行動しようとしたことがあるだろうか。



ろと言ったからよ。』とか、他人のせいにしてしまいそうなの自分がいます。

だからこそ、そうならないためにも、自分でちゃんと自分のやりたいことを決めて、自分で決断したチャレンジだ、という覚悟を持つとうと思いました。」

愛華さんは、とうとう推薦を断り、宝塚音楽学校を受験することを決意します。

とは言え、宝塚音楽学校は、生半可なまはんかな努力で入れるところではありません。愛華さんは、国語や数学などの勉強に加え、知り合いの先生に歌やピアノのレッスンを頼んだり、根占から鹿屋まで片道一時間以上かけてバレエのレッスンに通ったり、残された時間出来る限りの努力をすることにしました。それでも、現実には甘くありません。歌もダンスもピアノも、難しいことだらけです。

心が折れそうになったこともありましたが、先生の前で「頑張がんばってみます。」と宣言した時のことを思い出し、自分を奮ふるい立たせました。愛華さんのことを応援おうえんしてくれた、母親やピアノの先生、周囲の人たちなどの言葉にも元気をもらいました。

そしていよいよ、受験の日がやってきます。試験会場で、全国各地から集まった大勢の志願者に囲まれて、さすがに愛華さんも緊張きんちやうと不安おそに襲おそわれます。しかし、「みんな血を吐はくほどの努力をしてきた人たちばかりかもしれないけど、私だつて努力をしてきたし、もう戻もどるところはないと覚悟かくごを決めて来ているんだ。負けるわけにはいかない。」と自分に言い聞かせました。小さな頃からやってきた人たちには、確かに技術面ではかなわないかもしれませんが、宝塚への情熱は、決してひけを取りません。そんな思いのたけを、面接官にありのまま

【思いのたけ】
自分が思っていることや考えていることのすべて。

【鹿児島島の自然と愛華みれさん】

南大隅町根占の豊かな自然に囲まれて育った愛華さんは、次のようにも語っている。

「いろいろなことに挑戦してみようという気持ちや、多少のきつい状況にめげない心と体の強さは、やはりこの自然の中で育てられたと思います。」

それと例えば、きれいな星を見て感動する演技をするときに、根占で本当にきれいな星空を眺めた経験があるので、都会で育った他の人よりも、その感動がより伝わるような演技ができたのだと思います。」

【根占から錦江湾と開聞岳を望む】



に、そして心の底から訴えました。

「私はまだ、歌やダンスの技術は未熟かもしれませんが、でも、宝塚で学びたいという気持ちは誰にも負けているとは思いません。私の眠っている可能性を引き出してくれるのは、この場所、そして先生方なのです。」

思いは通じ、千人近い志願者の中から選ばれた、たった四十八人の合格者の中に、愛華さんの名前が記されていました。合格を知ったとき、愛華さんは、地に足がつかないような、信じられない気持ちでいっぱいでした。そしてしばらくして、心の底から喜びが溢れてきました。

「私にとっては、そこからスタートでした。」

ひたむきな努力が実り、宝塚音楽学校に見事に合格した愛華さんでしたが、小さい頃から様々なレッスンを受けてきた周りの学生と、自分とのレベルの違いは明らか

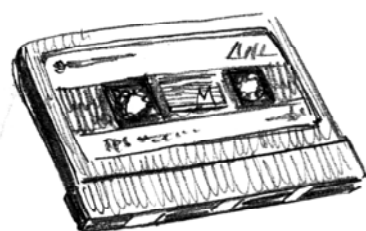
【考えてみよう】

愛華さんが「私にとってはそこからスタートでした。」と語ったのは、どんな気持ちや考えからだったのだろう。

でした。その差を埋めていくことはもちろん、仲間として認めてもらうため、そして自分を支えてくれる多くの人達のため、愛華さんは昼夜を問わずにレッスンを励みました。

踊りの上手な学生を見つけては、すぐ後ろに陣取ってその動きを熱心に観察しながら練習したり、授業の時には必ず一番前の席に座り、先生の話テープに録音して家に持ち帰ったりもしました。また、同級生たちにも自分から進んで話しかけたり、励ましたりするように心がけ、やがて愛華さんは、周囲から慕われ、頼りにされる存在へと成長していったのです。

宝塚音楽学校の二年間の課程を修了した愛華さんは、晴れて一九八五年（昭和六十年）、宝塚歌劇団に入団しました。入団後も愛華さんは、自分を磨き周りを大切にす姿勢を貫き、十五年目の一九九九年（平成十



【考えてみよう】
愛華さんが、自分のことだけでなく、周囲の友達とのかかわりも大切にしながら修業を重ねたのはどうしてだろう。

一年)、ついに花組のトップスターとなります。その後、二〇〇一年(平成十三年)の退団まで、花組のトップスターとして主に男役を演じ、数多くの観客やファンを魅了しました。

「夢を描け、夢の翼を休めるな。」

この言葉は、愛華さんが小学生の頃から大切にしている言葉です。根占から宝塚を志した時も、仲間と修業の日々を送った時も、トップスターとして大勢の観客の前に立った時も、愛華さんを支え続けている言葉です。

宝塚歌劇団を退団した愛華さんは、女優としてテレビや舞台で精力的に活動します。その後、悪性リンパ腫という大病を患^わず^いって長い闘^と病^び生^じ活^くを送りますが、不^ふ屈^{くつ}の精神で復帰し、現在も元気に活^かっ^かく^くを続けています。常に前向きに、目標をもって走り続ける愛華さんを、この言

【読んでみよう】

二 八年(平成二十年)に、愛華さんは、血液の癌^{がん}である「悪性リンパ腫」という病気にかかるが、復帰を果たす。

愛華さんは自らの闘病生活を「てげてげ。良い加減」なガンとの付き合い方」という本にまとめている。





【愛華みれさん】

葉が、これから先も支えていくことでしょう。

最後に、愛華さんから、鹿児島県の中学生の皆さんへ贈られたメッセージを紹介おくします。しょうかい

「まず、持てる夢はたくさん持って欲しいですね。そして、自分に問いかけて欲しい。『本当にやりたい夢なのか。』を自分に問いかけて、自分が『そうだ。』と答えたら、頑張る努力をして欲しいですね。」

次に、家族や友達、周囲の人々との関わりを大切にしたいです。さらに、今学べることは、今のうちに学ぶという姿勢を持つことです。

最後に、自分も既に『社会の一員すてなんだ』という意識を持って過ごすと、主体的で、前向きな生活が送れると思いますよ。」

皆さんは、どんな夢を描きますか。